

主 題：あなたは欠けてはいませんか

聖書箇所：ペテロの手紙第二 1章5-11節

もし誰かがあなたにこの世で成功する秘訣を教えると言ったら、あなたは飛びつきませんか？必勝本がベストセラーになっています。誰しも成功する秘訣を知りたいと思うからです。

今朝皆さんに、最も大切だと思っている方から、これ以上ないほどの賜物、祝福を得ることができる、その方法を教えることができますと言うなら、あなたは耳を傾けますか？

ペテロは私たちに教えてくれます。

【神に仕えることにおいて役に立つ者となる】

【クリスチャンとして豊かな実を結ぶ方法】

私たちがクリスチャンとして主の前に成功をおさめるために、これは大切なことです。

このペテロの手紙第二1章を見て行くと、クリスチャンである私たちには、まず信仰が与えられました。そして、いのちと敬虔に関するすべてのことが与えられ、神の性質にあずかる者となる約束、すなわち、キリストに似た者となる約束が与えられています。このような特権を与えられたゆえに、私たちには大きな責任があります。クリスチャンとして成長してゆくという責任です。神に似た者となるために、神の性質にあずかる者となる、キリストに似た者へと変えられて行くために、次の三つの質問によって、私たちに大切なことを学んでゆきましょう。

1. いったい私たちは何をしなければならないのか。
2. なぜ、それをしなければならないのか。
3. どのようにして、それをしなければならないのか。

この1章3,4節で、ペテロはまず、神が私たちに与えてくださったすばらしい恵みについて話しました。「というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」と。そして、5節から、私たちの責任について語ります。

1. 私たちは何をしなければならないのか 5-7節

それは「加えなさい」です。加えるのです。神から与えられた信仰に豊かに加えてゆくのです。5節の始めに「こういうわけですから、」とありますが、これは原文では「～なのですから」です。「～なのですから、～でありなさい。」と。この二つ目の～が5節以下のことを指します。

あなたがたは救われたのだから～しなさいと、これははしてもしなくてもいいものではありません。それをしなければおかしいですよ、するべきです、と言われているのです。「加える」とはこのような意味です。

“ある町で大きな祝典があり、人々はいろいろと準備をします。そこにその町の裕福な人が自分の財産の中からありとあらゆるものをもって必要以上のものを与える”。ペテロが教えることは、神が私たちにのために備えてくださった祝福、約束のゆえに、神の横に並んで、神とともに、自分自身も持っている全財産、全存在を投げ出して、神が与えてくださった信仰にペテロがこれから伝える七つのことを加えてゆかなければならない、ということです。信仰は始めからあるものです。なぜなら、この手紙の読者はクリスチャンだからです。神から信仰が与えられました。そこに加えてゆくのが私たちの責任です。霊的な特質が七つ挙げられています。これらはひとつづつステップではありません。信仰という大きな枠の中に入るものなのです。ひとつづつ見てゆきましょう、

徳＝あることから与えられている役割、目的を完全に成就すること、目的を正しく達成するとき生まれる

もので、「すばらしい」と表現されます。クリスチャンの目的は神の栄光を現わすことですから、その道徳的すばらしさが徳なのです。この「徳」と同じことばがIペテロ2:9に使われています。「…それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわ

ぎを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」と、この驚くべき光が「徳」と同じです。また、II ペテロ 1:3「というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。」と、キリストが神であるがゆえにもっているすばらしさ、徳は、私たちにも与えられているのです。

知識=これは実践的な知識です。日々の生活において善悪を判断するその知識です。正しいことを行なうための知識です。I ペテロ 1:14「…以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、」と、救われる前、私たちは神に関して無知でしたが、救われて知識を得ました。神が何を正しいとされるのか、その規準を知る者となったのです。その知識によって成長しなさい、と言われるのです。自制=私たちの内側にある願望、欲望をコントロールするものです。これは性的な分野だけではありません。神に関して、それが間違った方向に行こうとするものから自制を働かせなさいというのです。この当時、にせ教師がいて人々を惑わしていたとペテロは言っています。II ペテロ 2:2「そして、多くの者が彼らの好色にならい、…」、3:3「…終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、」と。ペテロは、神が求める正しいことによって自らを治めてゆきなさい、と言います。

忍耐=これは、「下に」と「留まる」の合成語です。重い荷物を足をしっかり踏ん張ってその重荷に耐え留まり続ける、ということです。しかし、聖書が教えることは単に「忍ぶ」だけではありません。ヘブル 12:2を見ましょう。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」と、イエスは十字架を単に忍んだだけではありません。そこに喜び、希望をもっていました。II ペテロ 1:3,4のとおり、すばらしい約束が与えられているのです。

敬虔=これは礼拝を上手にする、ということばから出ました。神との正しい関係について言っています。礼拝の態度です。すべてのことにおいて、どうすれば神が喜んでくださるのかを知って行なっているのです。周りの人がその違いに気付いて神を認めるのです。

兄弟愛=家族の間で持つようなあたたかい感情によって、相手の必要を満たそうとするものです。なぜなら神の家族だからです。これは実際に行なわれる愛の行為によって現わされるものです。ヤコブ 2:15以下にそのことが書かれています。「もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」と。同じように、ローマ 12:10「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、」、I テサロニケ 4:9「兄弟愛について、…互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。」、ヘブル 13:1「兄弟愛をいつも持っていないなさい。」、I ペテロ 1:22「…偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。」とあるとおりです。

愛=最後に「愛」です。これは、先の兄弟愛の感情的なものよりさらに進んで「意志」によってもつ愛です。神が私を愛してくださったその愛です。なぜなら、私たちは愛される価値のないものだったからです。神が愛そうと決められたのです。私たちの中から自然に生まれてくるものではありません。I ヨハネ 4章にあるとおり、神がキリストを私たちのもとに送ることによって、神はその愛を実践されたのです。

以上のことは、救われている者が、その信仰に加えるべきものだと言います。もし、欠けているなら自分の信仰を見直しなさいと…。

2. なぜ、それをするのか 8-11 節

二つ見ましょう。

(1) 動機 8-9 節

動機の肯定的な面から、8 節「役に立つ者となり、実を結ぶ者となるために」。「豊かになるなら」とは原文では「これらがあなたがたに備わっていて、ますます豊かになっているのですから」となっています。すなわち、ペテロは読者がそうであることを疑っていないのです。七つの特徴を身につけている者だから、役に立つ者、実を結ぶ者になる、というのです。「役に立たない者」とは仕事をしない者、仕事をやりたくない者のことです。「実を結ばない者」とは、もうこれ以上ないというほどの良い環境におかれた木が、その時期になっても実をつけない、その状況です。このようなことは決してない、とペテロは言います。私たちも願います。神に役立つ者に、用いられる者にと…。

動機の否定的な面はどうでしょう？ 9 節「これを備えていない者は、近視眼であり、盲目であって、自

分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。」と。ここでは二人称が使われていませんから、読者ではなく、多分にせ教師たちのことを言っているのでしょう。ここも原文では「これらを備えていない者は盲目です」となっています。そして、その説明が「近視眼であり、忘れている」のです。「近視眼」とは、遠くが見えないのです。霊的にです。自分の周りのことしか見ていないのです。神に興味がないから、神が求めておられることがわからないのです。また、「忘れて」は、忘却を受けて、ということで、自分の罪がきよめられたことを忘れてしまっているのです。にせ教師たちは救われた者です。しかし、その信仰に七つのものを加えていないのです。霊的記憶喪失です。ペテロはこれらを記すことによって読者に警告しているのです。

(2) 約束 10-11 節

二つの約束があります。

a) 今、与えられている約束

10 節にその条件が書かれています。「召されたことと選ばれたこと」とは救われたことですが、それを確かなものにしてください、と言います。5-7 節の七つの特徴を加えてゆくのです。一度救われた者が救いを失うことはありません。しかし、救いの確信を失うことはあります。それは神に従って歩んでいないからです。「つまづかない」とは、「倒れて再び起き上がることができない」ことがない、ということです。

b) 未来の約束

11 節にあるとおり、「…イエス・キリストの永遠の御国にはいる恵みを豊かに加えられるのです。」と、これはまさに優勝パレードの光景です。私たちが御国にはいつて行くときの状況なのです。

3. どのようにして、それをするのか

では、私たちはどうしてこれらの七つのことをその信仰に加えてゆけるのでしょうか？

そのカギは 5 節と 10 節に書かれています。すなわち、「努力」と「熱心」です。自分の全生涯をかけて、全存在をかけて、「あらゆる努力をして」信仰に七つのことを加え、「ますます熱心に」救いを確かなものにする、これがペテロが言う秘訣なのです。ある人は“クリスチャンの辞書に「努力」ということばはない、神に委ねたのだから”と言います。しかし、それでは神の約束はないのです。

⇒ 私たちは神に期待をして力を尽すのです、神が私を変えてくださる、と。